

岐阜分室便り 『2006河川環境メッセin岐阜』盛大に終わる



岐阜分室 室長 大竹 良昌

7月の13、14日に岐阜メモリアルセンターで、昨年に引き続き「2006河川環境メッセin岐阜」(以下「環境メッセ」という。)が「IT CITY MESS E in G I F U」と共同で開催されました。

環境メッセは、岐阜県が進める「自然の水辺復活プロジェクト」の取組の一つとして、自然共生型川づくりに関心を持って研究開発を進めている企業や学校、NPO、市民団体、行政、研究機関等が広く県民に取組の姿勢をアピールし、研究成果を発表する場です。今年も、これまでの河川、道路、山林、農地関係等の基盤整備全体の自然再生の取り組みに加えて、自然環境に関する情報化への取り組みにもテーマを広げ、産学民官が連携した「環境」に関する幅広い取り組みを紹介するものです。また、自然共生型社会を実現するための新しい技術、工法や製品等を展示するビジネスショーであると共に、関係者と一般来場者が交流し、学ぶことができる複合イベントとして開催されました。

テーマは『～人と自然の共生を支える技術展～』で、自然共生技術ゾーン(企業出展)、行政・研究開発ゾーン、市民参加・環境ゾーンの3つのゾーンと河川環境情報広場で構成され、82の産学民官の出展と、9小学校から環境学習について出展されました。同時開催イベントとして「自然共生特別講演会in岐阜」が開催され、西條好迪岐阜大学助教授による「自然共生工法と外来植物」、駒田格知名古屋女子大学教授による「魚とともに生きる～魚にとってやさしい環境とは～」の講演がありました。

リバーフロント整備センターもこのイベントを後援し、岐阜分室も行政・研究開発ゾーンで「自然再生への取組み」をパネルで紹介するとともに、愛知万博の「水と緑のパビリオン」で出展した「水循環

パネル」の全国版を展示しました。

環境メッセへの入場者は、両日で約18,000余人となり昨年よりいくらか減りましたが、出展者も昨年に比べ展示物に模型など実体観のあるものを展示したり、浴衣姿の女性など趣向を凝らし、大変盛大に開催されました。



◎出展概要

自然共生技術ゾーン(企業出展)、行政・研究開発ゾーンでは、模型、パネルや映像などによって製品の紹介がされ、大学などからは日頃の研究成果を模型やパネルなどによって紹介されました。また、市民参加・環境ゾーンでは小・中学校、高校、NPOをふくめた一般市民団体の自然環境の取り組みが紹介されました。

河川環境情報広場では、市民交流会や企業PR映像の他、山県市立桜尾小学校・エコキッズ桜尾小6の13名による「カワラゲラウォッチングから学んだこと」と題して、日頃から研究してきたことを次の4つのテーマに分かれて、壁新聞にまとめ発表されました。

- ①鳥羽川の自然と水生生物
- ②武儀川の自然と水生生物
- ③川のはたらき(飲料水と水生生物を育む)
- ④豊かな山と海をつなぐ川(心のふるさと)

◎まとめ

主催者、出展者が来場者とふれあい・交流できるよう趣向を凝らし、回数を増やす毎に良くなってきている。会場内も活気が漲っていた。当センターも出展内容に工夫をしていかなければと痛感しました。

